

平成 26 年度保安力向上センターの活動報告

1. 「保安力評価システム」の普及促進

(1) 支援会員の保安力評価の実施（無償）

13 社 13 事業所において、センター評価（第 3 者としての評価）を実施した。

残り 7 社については、平成 27 年度に実施する予定である、

(2) 有償の「センター評価」の実施

4 社 4 事業所においてセンター評価を実施した。（工場単位では延べ 7 工場）

(3) 新規会員の募集

① 支援会員として 2 社（日本エイアンドエル㈱、新日鐵住金㈱）が入会され、21 社となった。ただしそのうち 1 社は、次年度から普及会員に会員種別変更となる。

また 2 社（太陽石油㈱、コスモ石油㈱）から次年度に入会の意思表示があった。

② 6 月から支援会員とは別に保安力評価システムを利用することを目的とした「普及会員」の募集を開始した結果、4 社（四国化成工業㈱、三菱マテリアル㈱、高砂香料工業㈱、東洋スチレン㈱）が入会された。

また 6 社（㈱クボタ、日本合成化学工業㈱、日本ポリエチレン㈱、東洋合成工業㈱、KHネオケム㈱、JNC 石油化学㈱）から次年度入会の意思表示があった。

(4) 保安力評価システムの拡充

以下の 2 つの WG を 9 月に立ち上げ、3 月に新たな保安力評価システムを構築した。

① 重点評価システム

主として中堅企業向けに、現在の保安力評価システムの評価項目を重要な項目に絞り込み、使いやすい評価システムを構築。（評価項目を約半数に絞込んだ）

（「重点版評価表」、「評価項目の解説」、「用語の解説」を作成）

主査：下山さん（三井化学㈱） メンバー：推進委員およびセンター評価員計 7 名

② 加工版評価システム

電子材料の加工など「加工」プラントに適用できる評価システムを構築中した。

（「加工版評価表」、「評価項目の解説」、「用語の解説」を作成）

主査：大平さん（D I C㈱） メンバー：推進委員及びセンター評価員計 6 名

③ 製鐵所版評価システム

製鐵所の保安力評価に向けて、新日鐵住金㈱とセンターで検討した結果、用語の修正のみで評価表の修正は必要なかった。

2. 保安に係る「技術者・専門家」の育成支援

(1) 「保安力評価推進委員（支援会員の保安力評価の推進者）」の力量向上

①保安力評価推進のため、9月から推進委員の研修を開始した。評価システムについての解説と、評価の実地研修で構成している。

(2) 保安力評価員（センター評価員）の育成

①運転、保全、保安部門の経験豊富なOBおよび安全文化に造詣の深い方にセンター評価の補助評価員として参加してもらい、センター評価員として育成に取り組んでいる。

②センター評価員の認定制度を構築した。

(3) 安全セミナーの開催

化学工業日報社と提携し、保安力評価をテーマに今年度第1回目のセミナーを9月11日に共催した。（受講者は41名）

次年度からシリーズで保安力セミナーを開催する予定である。

3. 「保安力に関する情報」の収集と提供

(1) 各社にて実施した「保安力評価」のデータ集積と提供

①各社の保安力評価の取り組みについて、自主的な安全活動の参考になるよう推進委員会の場で順次情報交換を実施した。（今年度5回実施）

②経済産業省の受託事業で収集・分析した保安の取り組みに関する良好事例を、会員に提供した。

(2) 国内外との情報交流と連携の推進

①経済産業省商務流通・保安グループ保安課より、安全工学会が現場保安力の向上に関する調査事業を受託した。本事業は現場保安力を体系化し、産業横断的に現場の安全を向上するための試みの収集・分析などを行い、保安力評価システムへの反映や改善支援に活用する計画である。

②6月にフランス産業安全文化研究所（ICSI）のボアジェール博士（最高責任者）、リバイユ博士（国際連携担当）が来日され、センターとの連携について協議した。また一緒に経済産業省（商務流通保安グループ保安担当審議官、保安課）、石化協（専務理事 他）日化協（専務理事 他）を訪問し、連携について意見交換を実施した。

更に10月にICSIを訪問し（若倉センター長他）、具体的な連携の方法について協議した。連携に向けた契約を準備中である。